



# 大門小だより

10月号

大門大好き いい仲間 進んで学ぼう 元気な子

令和元年9月27日  
横浜市立大門小学校



## スポーツを楽しむ

校長 佐藤 峰子

9月20日、ラグビーワールドカップ日本大会が開幕しました。

15人制ラグビーの世界王者を決定する大会は、4年に1度開催されますが、アジアでの開催は今回が初めてとなります。11月2日に横浜国際総合競技場で決勝が行われるまで、全国12会場で熱戦が繰り広げられることでしょう。

世界中に熱狂的なファンがいるラグビーですが、日本で開催されるまで興味がなかったという方もおられるのではないのでしょうか。35年以上も前の話で恐縮ですが、新日本製鉄釜石（岩手県・釜石）が7連覇をした時代に、郷里が岩手である私の周りにはラグビーファンが多く、私も家族と一緒にテレビで観戦していました。が、ルールがよく分からず、その後神戸製鋼が社会人ラグビーの覇者となったあたりから、ラグビー観戦から遠のいていました。ワールドカップ日本大会が近づくにつれ、ラグビーを知ってもらおう、大会を盛り上げようという意図からラグビー関連の記事やテレビ番組が増え、懐かしい映像を観る機会もあり、当時のことを思い出しました。大会の決勝が横浜で行われるのには、様々な理由があると思いますが、横浜が日本のラグビー発祥の地であることも関係していると思っています。開港により、外国から様々なものが横浜を起点に日本中に広がっていきました。その一つにラグビーがあったことを、大会が開催されたことで知ることができました。

9月18日の給食には、日本の初戦の相手であるロシアの料理が提供されました。主菜がビーフストロガノフで副菜としてマッシュポテトとカプースタ（キャベツの漬物）、ラグビーボールの形をしたチーズも添えられていました。「ぱくぱくだより」や校内放送でビーフストロガノフをマッシュポテトにかけて食べましょうと勧めていたので、教室を回ったときにそのことを子どもたちに伝えると、「分かったけど、好きに食べさせて」と言われ、妙に納得してしまいました。10月の給食の献立に、ラグビー発祥の国イギリスの料理が登場します。今から子どもたちの反応が楽しみです。

スポーツとの出会いは、人により様々です。今現在活躍しているアスリートの中には、保護者の影響で幼いころからその競技に取り組み、世界で戦う力を付けていった人たちがいます。環境が整っていた上に本人の鍛錬があつてのことでしょう。地域のスポーツ団体や中学の部活動がきっかけとなった人、友人から誘われてという人もいます。後輩の教員で、スポーツとはほぼ無縁だった人が、ジョギングから始めて、今では全国各地のマラソン大会に、高校生の子どもと一緒に参加している人がいます。その話を聞いて驚きましたが、走ることの魅力を理屈ではなく体で感じたと言っていました。友人に、退職後にラジオ体操にはまっている人がいます。スキーや登山が好きだった私は、膝を痛めてから好きなスポーツを止められているので、現在できるスポーツを模索中です。

明日9月28日（土）に「第46回大門運動会2019」を開催いたします。保護者や地域の皆様のご来校を心よりお待ちしております。